

---

# 失ってから（母）

聖魔光闇

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

失ってから（母）

### 【Nコード】

N1017R

### 【作者名】

聖魔光闇

### 【あらすじ】

父が他界してから母の様子がおかしい。（誤字修正済み）

(前書き)

気にならないと言えば嘘になる。

最近義母さんの様子がおかしい。

昼間、今までであれば、義父さんの愚痴を毎日のように言い、私が聞いていてもうんざりする程だった。

しかし、義父さんが他界して、通夜と告別式が終わってから変貌した。

衣類のセンスが若々しくなり、年の為かロクに化粧もしていなかったのに、最近では毎日のように、三面鏡の前に座り楽しそうに鼻歌まじりに化粧をしている。

旦那に相談すると、父が他界し、自分の生活が確保出来た事で、心にゆとりが出来たのだらうとの事だった。

しかし何かおかしい。買い物に出掛けるにも念入りに化粧をし、義父さんの遺影に向かって毎日何かを呟いている。不信に思った私は、罪悪感を感じながら、義母さんの引き出しにある手記を手にとつて眺めてみた。

『6月16日 貴方がいなくなって、心に大きな穴が開いたようです』

『7月2日 あの子は、祐美子さんの言う事しか聞かない。実美は、もうすぐ幼稚園に行きます。隆弘は、だんだん私から離れて行って

いるようです。貴方を失って、私は自由になりました。でも心に開いた穴は塞がらない。どうして、私も連れて行ってくれなかったの？ 私は今、外出の度に昔を思いだして、化粧をしています。もう一度、もう一度だけでいいから、愛してると言っただけでいい。貴方の声が届きたい。貴方の笑顔が見たい。隆弘や祐美子さんは、初めは落胆していたようですが、今では何も変わらなかつたように生活しています。庭先のチューリップが色とりどりの花を咲かせました。もうすぐ四十九日ですね。貴方の大事なチューリップは、貴方の遺影のそばに飾っておきます。隆弘が大事に育ててくれたんですよ。私もそこに連れて行って下さい。貴方の傍で笑っていたい。それだけが、今の私の望みです。また、貴方と同じ手記を書きますね。貴方の心が少しでも分かるように。追伸、二人目の孫が産まれました。名前は栗栖。元気な男の子です。また、貴方の写真のそばに飾っておきますね。それではまた、お話しします。早く私を迎えに来て下さい。いつでも準備して待っています。美津。』

そう書かれた手記を見て、私は涙が止まらなかつた。隆弘さんには内緒にしておこう。コレを見たら、また隆弘さんは落胆するだろう。この手記の内容は心の中にしまっておこう。それが、隆弘さんの為だ。

『8月24日 義母さんは地下鉄のプラットフォームから飛び降りた。即死だった。私は今、自分の本棚の間に義母さんの手記を隠している。隆弘さんに見付からないように』

そんな手記を、たまたま見つけたのは、部屋の整理をしていた時だった。祐美子の思いに感謝しながら、また涙が止まらなかつた。

(後書き)

配偶者が他界して、水を得た魚のように、生き生きする者もいる。  
しかし、その反対もいる筈だ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1017r/>

---

失ってから（母）

2011年10月8日01時21分発行